



# 十勝岳の噴火で噴出するもの

Materials from a Mt. Tokachi eruption.

十勝岳の噴火では、様々なものが火口から勢いよく飛び出します。

- マグマが泡立ちながら冷えて固まったスコリア
- マグマが冷えて固まりかけた溶岩
- 冷え固まったマグマや周りの岩石が砕けてできた火山灰

また、液体のマグマがゆっくり噴出し、溶岩流として流れることもあります。

1988（昭和63）年の十勝岳の噴火では、人より大きな岩も火口から飛び出しました。また、砕けた溶岩や火山灰が火山ガスと一緒に、小さな火砕流となって高温で雪の上を流れました。



雪の上を流れる小さな火砕流の様子  
写真提供：旭川地方気象台

十勝岳に登ると、昔の噴火で流れた溶岩の岩場も見ることができます。溶岩流には、ハワイの火山のようにさらさら速く流れるものと、少しゆっくりりじわり流れるものがあります。十勝岳の溶岩流はやや粘り気があり、ゆっくり流れるものが多いようです。



(2007年撮影)

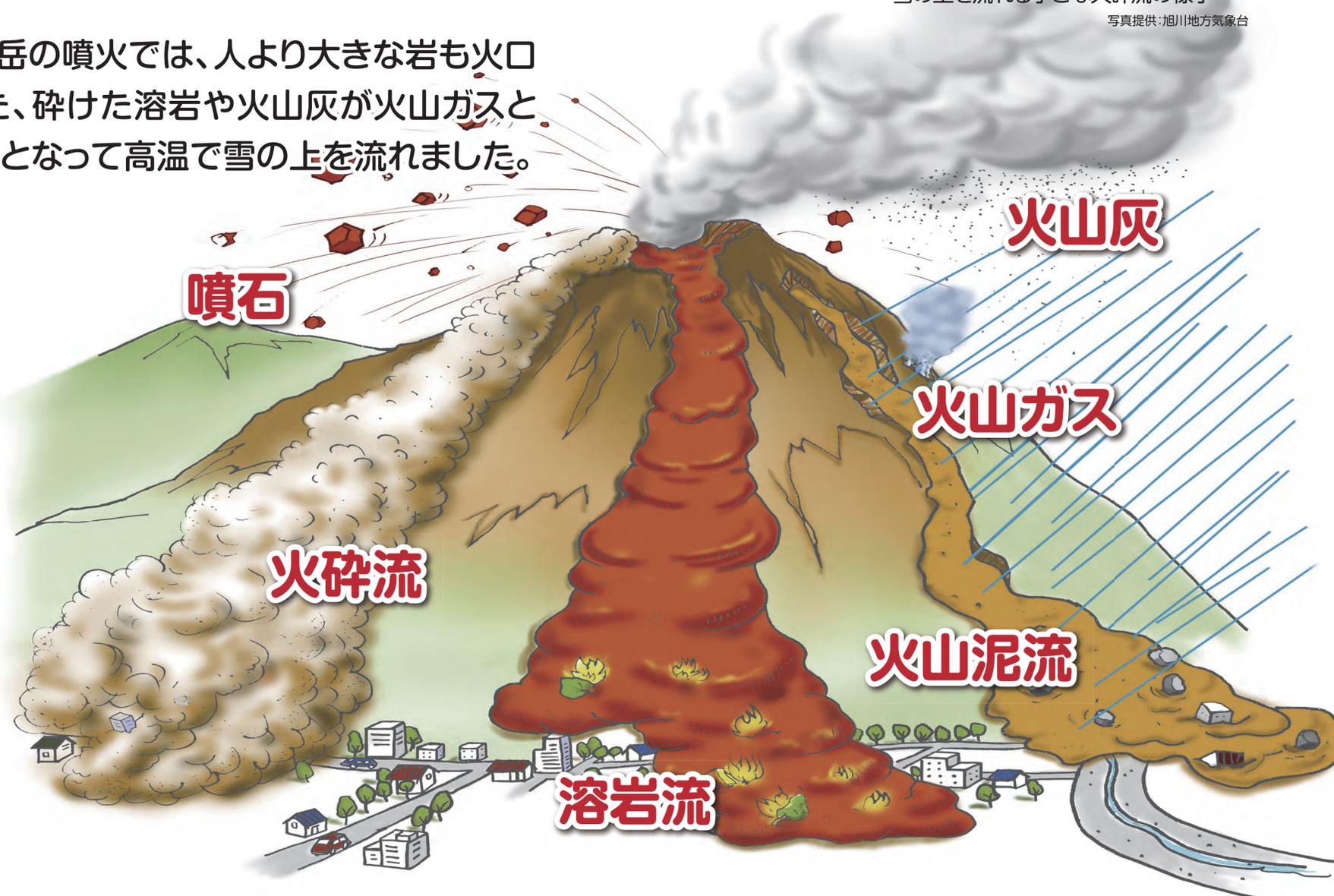
望岳台の近くにある探勝路で見られる溶岩の岩場



溶岩がゴツゴツしたブロックのようになっています。このような溶岩は、かなりゆっくり流れて固まったものです。



スコリアは主に黒っぽい色をしており、表面はガサガサしていて、軽石と同じようにたくさんの孔が見られます。



(1989年撮影)  
噴火で火口から飛び出た巨大な岩  
(1989年1月8日に噴出)



(1989年撮影)  
火砕流として流れた岩石や火山灰